

7月のてがたんにご参加いただきありがとうございます。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回8月のてがたんは8月10日(土)で、テーマは「外来種ってどんな生きもの？」です。ぜひご参加ください。市民スタッフのみなさま、次回の下見は8月4日(日)です。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→市民農園前
- 観察日時と天気：2019年7月13日(土) 10:00~12:00 くもり
- 参加人数：34名(大人21名、中学生以下13名)
- 市民スタッフ：6名(竹本周平、石原直子、伊東茂子、木村稔、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2名(小田谷嘉弥、高橋梨沙)

観察した生き物の記録

[*]は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

キジ科：キジ、カモ科：カルガモ、コガモ*/カイツブリ科：カイツブリ(声)/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ/クイナ科：オオバン/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ*/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ(声)/ウグイス科：ウグイス(声)/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ*/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ(声)/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ/家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【両生爬虫類】

爬虫類：ミシシッピアカミミガメ(卵含む)、ニホンカナヘビ/両生類：ニホンアマガエル、ウシガエル

【昆虫】

チョウ目：ルリシジミ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ゴマダラチョウ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ジャコウアゲハ、タケカレハ(まゆ)/コウチュウ目：ウスバカミキリ、アオドウガネ、マメコガネ、コガネムシ類不明種、オオヒラタシデムシ、ナミガタチビタマムシ/バッタ目：ヒシバッタ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、ショウリョウバッタ、キンヒバリ(声)、ツツレサセコオロギ(声)、シバズ(声)、クビキリギス、ヒメギス、ヤブキリ/カメムシ目：アメンボ、アブラゼミ、ニイニイゼミ、ヨコヅナサシガメ/トンボ目：アオモンイトトンボ*、コシアキトンボ、ウスバキトンボ、コフキトンボ、ノシメトンボ/カゲロウ目：クサカゲロウ/ハエ目：アオメアブ、ガガンボの仲間/ハチ目：キロスズメバチ、コガタスズメバチ、セイヨウミツバチ、ルリチュウレンジ、ベッコウバチ

【クモ・その他節足動物】

クモ：コガネグモ、ナガコガネグモ、ジョロウグモ、ギンメッキゴミグモ、クサグモ、アシナガグモの仲間、コマチグモの仲間(巣を含む)、ハシリグモの仲間/その他の節足動物：オカダンゴムシ、ワラジムシ、ニホンヒメフナムシ

【花・実】

花 キク科：ヒメジョオン、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ハキダメギク、ウラジロチチコグサ、フタナ、アメリカタカサブドウ/ゴマノハグサ科：マツバウンラン/ツユクサ科：ツユクサ/アカバナ科：メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、アカバナユウゲショウ/アカネ科：ヘクソカズラ/ヒルガオ科：ヒルガオ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/オモダカ科：オモダカ/アブラナ科：イヌガラシ、マメグンバイナズナ/ブドウ科：ヤブカラシ/オオバコ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、オオバコ、ヘラオオバコ/マメ科：シロツメクサ、ムラサキツメクサ/ラン科：ネジバナ/アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ/タデ科：ギシギシ、ヒメスイバ/ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ/カタバミ科：カタバミ、オウタチカタバミ、イモカタバミ/ユリ科：ヤブカンゾウ/アリノトウグサ科：オオフサモ/イネ科：コバンソウ、カモジグサ/イグサ科：クサイ/ハエドクソウ科：トキワハゼ/ドクダミ科：ドクダミ/ツツラフジ科：アオツツラフジ
実 イネ科：イヌムギ、ネズミムギ、スズメノカタビラ、スズメノヒエ/イグサ科：スズメノヤリ

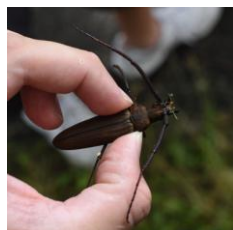
7月の観察アルバム



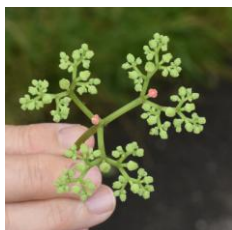
今回のてがたんのテーマは「てがたんしりとり」でした。けやき広場から水生植物園跡まで5つの班に分かれて歩き、班ごとに生きもの名前をしりとりを行いました。普段はあまり観察しない生きものたちに目を向ける良い機会になりました。



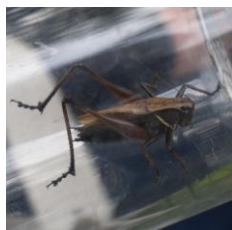
今月の案内人
竹本周平さん



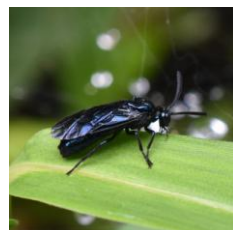
① サクラの幹にいた大きなウスバカミキリ



③ ピンク色のヤブカラシの花



④ ツツジの植え込みにいたヒメギス



⑤ 瑠璃色の光沢があるルリチュウレンジ



⑥ 日光浴していたニホンカナヘビ



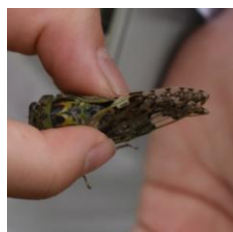
② アブラゼミの抜け殻。当日は鳴き声は聞かれませんでした。羽化したばかりの成虫が何匹が見つかりました。



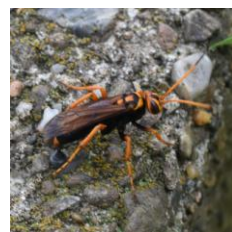
歩いたルートと観察した生き物



⑧ 遊歩道沿いに散らばっていたコブハクチョウの羽毛。繁殖が終わった夏に全身の羽毛を生え換えます。



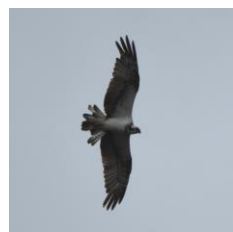
⑦ ケヤキで鳴いていたニニイゼミ



⑨ 地面近くを飛び回っていたベッコウバチ



⑩ 葉の上で休んでいたニホンアマガエル



⑪ 沼の上を飛んでいたミサゴ



⑫ カミキリムシがヤナギから抜け出した跡

今月の鳥 オオヨシキリ (スズメ目ヨシキリ科)

オオヨシキリはスズメくらいの大きさの褐色の小鳥で、水辺のヨシ原に生息しています。手賀沼周辺では夏鳥で、4月下旬ごろに最初に雄がやってきて、昼も夜も「ギョシギョシ…」と大きな声でさえずります。本種は鳥の中では少数派の一夫多妻で、1羽の雄のなわばりの中で2~7羽の雌が巣をつくります。雄はほとんど子育てを手伝わないので、雌は巣のあるヨシ原と餌場となる田んぼのあぜなどを往復して巣のヒナに餌を運びます。7月半ばごろから雄はさえずらなくなり、姿が見づらくなりますが、ヨシ原の中から「グルル」という地鳴きが聞こえたら、巣立ったばかりの幼鳥が見つかるかもしれません。オオヨシキリは渡りの始まる10月ごろまで手賀沼沿いのヨシ原で見られるので、地鳴きをたよりに探してみましょう。



9月に手賀沼で捕獲されたオオヨシキリの幼鳥。渡りに備えて脂肪をためて、体重を普段の1.5倍くらいに増やしている。